

念仏を 次の世代に・・・

仏縁の多くは家庭によってもたらされていましたが、現代はおよそ宗教的
伝承が困難な状況です。そのなか宗門では「次代を担う『人』の育成」を課題と
し、「生涯を通して念仏の教えが伝わる道筋」をつくろうと「キッズサンガ」を
運動として始めました。

これは全寺院で僧侶と門信徒が力を合わせて、お寺を「子どもから大人まで
が集うサンガ」にしていこうとする運動です。

この度の法統継承を機縁として、「キッズサンガ」運動をさらに展開して、
子どもはもとより、若者へのご縁づくりに力を入れていきたいと思ひます。

広く一般社会にも眼を向け、子ども・若者全体を視野に入れて取り組むこと
であることを、より鮮明にするため、運動の総称を「子ども・若者ご縁づくり」
としております。

この「ご縁づくり」に、寺院、門信徒、僧侶が力を合わせて取り組んでいきたく
いと思ひます。また「ご縁づくり」の第一歩は、お寺や僧侶自身が変わっていく
ことであることを忘れないでいたいと思ひます。

なじ つな 「馴染む」と「繋ぐ」

馴染みの無い所には、近寄りにくいものです。

子ども・若者たちにとって仏教やお寺は、馴染みが無い、
または薄いものとなっているようです。

まず本来の仏教やお寺などに触れ、
知ってもらうことを通して、「馴染んで」もらうこと、

そして、すでに馴染んでいる方には、引き続いてご縁をもってもらえるよう
「繋ぐ」ことに力を注ぎ、仏縁を「深めて」もらいたいものです。

発行：子ども・若者ご縁づくり推進室

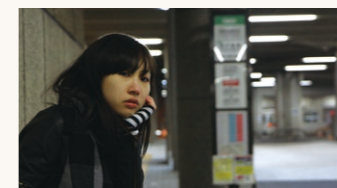
TEL 075-371-5181 FAX 075-351-1372

mail ; goen@hongwanji.or.jp

普及版2015(平成27)年 第1版2刷3,000

子ども・若者ご縁づくり

～キッズサンガをさらに～



<コンセプト>
ひとつのご縁×寺院=
10,000ご縁

宗派は「子ども・若者ご縁づくり推進室」を設置し、
「キッズサンガ」運動をさらに展開していくとともに、
「若者へのご縁づくり」に取り組んでいきます。

浄土真宗本願寺派



子ども・若者 ご縁づくり

<コンセプト>

ひとつのご縁×寺院＝
10,000ご縁

「手を合わせ、お念仏申す人になってもらいたい」 これが 私たち共通の願いです

願いの実現にむけ、子ども層はキッズサンガ「3つのかたち」で、
若者層は2つのアプローチで、ご縁づくりに取り組むものです。



取り組みにあたっての3つの視点

- ①子ども・若者の今に、み教えを… 子ども・若者の置かれている現状を学びつつ、ご縁づくりをします。
- ②お寺を本来の姿に… ご縁づくり活動を通して、世代を超えて集えるお寺をめざします。
- ③お寺どうし力を合わせて… 地域のお寺が協力し合いながら、ご縁づくりをします。

新たな視点

仏教やお寺に触れるご縁がない若者が多くあります。
まずは馴染んでもらえるよう、
若者の文化や状況などを考慮に入れながら、
あらゆるアプローチをおこなっていきます。

子どもへのアプローチ

これまでどおり
地道に取り組めます。

子どもへは、今までどおり キッズサンガ
テーマ「お寺を子どもの居場所に」と、
「3つのかたち」で引き続き取り組んでいきます。

1 日常生活で

生活の中で「手を合わせ」ことが自然に身につくように、家庭やお寺で
働きかけることなどで…。

2 法務・法要などで

ご法事に子どももお参りすることを奨励し、子どもに配慮した法話の
用意をしたり、報恩講など各法要に、子どももお参りしやすいように
工夫をすることなどで…。

3 子どもに特化した催しなどで

ご縁のある大人たちが共に、「初参式」「はなまつり」「サマースクール」
「子ども報恩講」などを催すことなどで…。

若者へのアプローチ 1

若者ご縁づくりは
キッズサンガの展開形です。

ご縁が少しでもある若者へ

もっと馴染んでもらい、ご縁を「繋ぎ」「深める」ことが課題と思っ
ます。そのために宗派は教区、組、寺院や宗門校や各連盟などの現
場と、ご縁づくり活動の企画や事例および教材などについて、情
報交換をしながら、共に取り組んでいきたいと考えています。

<具体的には>

左記の「3つのかたち」を活用し、「ご縁をより深めていく」取り
組みをおこなっていくことを提案します。
または、「中学生のつどい」「高校生のつどい」や「成人式」など、
若年層向けの催しを、「お寺」や「組」、「教区」などで各連盟と共
同しておこなっていきましょう。

若者へのアプローチ 2

視野を広くして
取り組みます。

ご縁のなかった若者へ

仏教やお寺への先入観や誤解を解く取り組みの中で、仏教を依り
所とする生き方を提案したいと考えています。
また、生きづらさを抱えている方が多くいます。その方に寄り添
い、阿弥陀さまの心に触れてもらえる取り組みも必要と考えてい
ます。

<具体的には>

宗派内外で、これらの事をおこなっている方がおられます。
その方々との連携も視野に入れながら、宗派として出来ることを
始めます。
若者の心に訴えることのできるメッセージやロゴデザイン、及び
企画などを提案していきます。